

平成30年2月28日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

福祉環境委員会委員長 柳楽 真智子 印

## 福祉環境委員会 行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので報告します。

### 記

- 1 期 間 平成30年2月7日(水)～2月8日(木)
- 2 場所及び目的
  - (1)大分県別府市
    - ・高齢者福祉支援施策
  - (2)大分県大分市
    - ・民生児童委員庁内サポート体制
- 3 派遣委員名  
柳楽真智子 ..... 上野 茂 ..... 芦谷英夫 ..... 田畑敬二 .....  
布施賢司 ..... 澁谷幹雄 ..... 西村 健 .....
- 4 調査の概要 別紙報告書のとおり

## ■大分県別府市

### 別府市行政視察報告

○期 日 平成30年2月7日（水）午後3時～4時30分

○場 所 別府市議会

○概要（説明）

- ①福祉環境委員会では、別府市の「高齢者福祉支援施策」について行政視察を行った。別府市は面積125.34km<sup>2</sup>、人口118,761人、高齢者人口39,056人、高齢化率32.89%、予算総額96,809百万円、うち一般会計民生費24,826百万円、介護保険事業11,592百万円、後期高齢者医療1,605百万円などとなっている。
- ②敬老祝金は、満70歳、満75歳、満80歳、満90歳に1万円、満100歳に10万円を誕生月の翌月の支給するもので、それまでは毎年70歳以上の方に五千円、75歳以上の方に七千円支給していたが、高齢者人口の増加に対し、支給していたものを平成20年から誕生月の翌月の支給に改め、事業費132,713千円であったものが29年度63,640千円にまで削減された。
- ③高齢者優待入浴券は、10か所の市営温泉に年180回利用できる優待入浴券を無料で交付している。
- ④家具転倒防止器具取付は、70歳以上高齢者のみ世帯を対象として、1世帯当たり3個以内を交付し、取り付けはシルバー人材センターで行い、件数は23年154件、27年18件、28年150件と地震発生年とともに利用件数が推移している。
- ⑤ひとり暮らし高齢者緊急通報システムは、65歳以上ひとり暮らし高齢者を対象として、据え置き型（固定電話回線）732台、携帯型36台を設置しており、緊急通報はコールセンターなどにつながり、救急車又は協力員が駆けつけることになっており、協力員のほとんどは身内が就いている。
- ⑥寝具類洗濯サービス事業は、65歳以上介護認定のひとり暮らし高齢者などの、市民税非課税世帯を対象として、敷き布団、掛け布団、毛布の3点を年2回まで利用でき、自己負担は1回につき810円で、28年21件の利用があり29年は175千円を予算化している。
- ⑦オレンジステッカー交付事業は、認知症高齢者、要支援介護者などを対象として、反射材ステッカーに登録番号を記載したもの20枚を無料で交付し、履物、持ち物などに貼るもので、登録番号とともに高齢者の特徴、写真、緊急連絡先などを登録し警察と情報共有している。
- ⑧ひとまもり・おでかけ支援事業は、29年10月から試験的に、70歳以上の高齢者がバスを利用する場合、半額とするもので、一冊1000円（額面2000円）を1人6冊まで購入できるもので、5,400万円（9,000人見込み）を予算化し、3月末決算2,000万円（事業費4,000万円）見込んでいる。
- ⑨そのほか老人クラブ育成、ゲートボール普及、地区敬老行事、老人憩の家、生活改善援助員派遣事業、高齢者配食サービス、介護支援ボランティア、成年後見制度利用支援事

業、在宅寝たきり高齢者介護者見舞金、家族介護用品給付、在宅高齢者住宅改造助成などの事業を行っている。



#### ○質疑応答

- ①（高齢者福祉事業費用の目安や考え方）予算が増えており、平成20年敬老者祝金は見直した。高齢者バス利用は、乗れる人、年齢のこと、運転できる人などあって、福祉を選ぶ選択制福祉を考えるべきで、年齢などに応じてサービスを考えていきたい。
- ②（高齢者の評判、家族の満足度）望まれる福祉について、ペーパーで取りまとめており、今後の形をつくっていきたい。
- ③（利用の少ない目標とは違うメニュー、施策の社協などからの声かけ、広報など住民PR）広報や冊子などは、包括支援センター、施設など置いている。ひとまもり・おでかけ支援事業は、周知されていない面がある。地域に出向く必要がある。
- ④（介護保険を使わない人への福祉サービス）視野に入れており、出かけること、入湯券の利用とあわせ、介護保険を利用しないこと、介護予防の喜びなどは財政面でもよい。
- ⑤（ひとり暮らし高齢者緊急通報システム実施前後の孤立死、協力員はどのような人か）孤立死は把握していないが、システムをつけることで孤立死に至っていない。協力員は身内がほとんどで、近所の人の場合もある。
- ⑥（ひとり暮らし高齢者緊急通報システムの自己負担）県内他市もやっていて自己負担取っており悩んでいる。機器取り換えの撤去費4,000円は取っている。

- ⑦ (オレンジステッカー46人のうち保護した例) 1件もなく、ステッカー貼った高齢者の通報もない。警察などに保護されることなく家に帰っていたという例があり、警察との情報共有、連携が課題である。
- ⑧ (人口推移、外国人、日本語教室) 人口は20年後に10万人を切る見込みで、人口が激減する恐れがある。風致地区で工場はなく外国人労働者はいないが、留学生、外国人教員、帰化や永住外国人が多い。文化国際課が留学生対象に日本語教室をしている。
- ⑨ (子育て支援への意識) 高齢者、子育て、障害者などバランスよくやる必要があり、将来を担う子育て施策は大事である。
- ⑩ (高齢者優待入浴券の波及) 自分で入浴できる人で、若い人が同行しているかどうかなど分からない。温泉地に近い人の交付割合が高く、温泉地でない人の交付は少ない。
- ⑪ (ひとまもり・おでかけ支援事業の換金のおそれ) 実証実験、単費事業で、利用期間のみ利用可能で、換金できない旨、購入時に念押ししている。

—以上—

## ■大分県 大分市

### 【大分市の概要】

大分市は、九州の東端、大分県の中部にある、県の県庁所在地です。

面積 502 k m<sup>2</sup>で人口 47 万人を擁すこの市では、古くから貿易や産業が発展し、現在まで東九州最大の経済拠点としての役割を担っています。戦国時代には、この地を収めた大友氏によって全国有数の貿易都市として発展し、西洋の文化がいち早く花開きました。

近代では、大空襲により大きな被害を受けながらも、新産業都市の指定を受け、鉄鋼業や石油化学工業などの工場が次々と進出し、また陸上・海上交通の発展により、東九州最大の経済・流通の拠点として確固たる地位を築いています。

### ◇ 視察に至った経緯

本市に於いては、人口減少、高齢化が進み高齢化率 33, 4%とだんだん増えてきている状況であり、民生委員・児童委員の役割は大変大きなものになってきている。要支援者の名簿作成、声掛けなど多くの業務が増えてきている中で、民生委員・児童委員さん自体の高齢化も進んでいることや、次の担い手確保が出来ない事態にもなっています。大分市の庁内サポート体制を調査して、本市でも民生児童委員さんが動きやすいような支援ができないか調査研究する。

### 【視察内容】

視察日時：平成 30 年 2 月 8 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 30

調査事項：民生委員・児童委員庁内サポート体制について

### ◇ 民生委員・児童委員数対比

H29、12 月末時点		大分市	浜田市
民生委員児童委員数	定数	8 6 5 人	1 9 5 人

	【内訳】区域担当	774人	175人
	主任児童委員	91人	20人
区域担当	実数	757人 欠員17人	172人 欠員3人
	(男)	202人 (26, 6%)	104人 (60, 4%)
	(女)	555人 (73, 4%)	68人 (39, 6%)
	新任	292人 (38, 5%)	38人 (22, 0%)
	再任	465人 (61, 5%)	134人 (78, 0%)
	1人あたりの担当世帯数	282世帯	152世帯
主任児童委員	実数	90人 欠員1人	20人 欠員なし

◇ 庁内サポート体制のはじまり（キッカケ）について

前市長が地域に出かけて行って「おでかけ市長室」、市民の皆さんと意見交換した時に、ある校区の民生委員さんからバックアップ体制の要望があり、それを受けて市長からのトップダウンで制度が始まる。（平成22年）



大分市民生委員・児童委員協議会

大分市福祉保健部福祉保健課

副会長：淵 芳包氏、廣瀬 惇子氏

渡邊 武明課長 朝来野 浩参事 和田 浩主任

### 【調査事項に対する事前通告した質問と回答】

質問：庁内のサポート体制とは

回答：大きく2つの点からサポートする事を目的とする。

#### ① 民生委員・児童委員庁内サポート会議（副市長、関係部課長）

- \* 支援担当者での解決が困難の場合に開催。懸案事項を庁内挙げて協議し、支援する。各課所掌の事業についての情報共有

#### ② 民生委員・児童委員支援担当者（課長補佐以上の職員 11課16名）配置

- \* 支援担当者は、民生委員からの情報ですぐ対応ができるようにしている。最初に相談を受けた支援担当者が、最後まで責任を持って対応を行う。

- \* なぜ管理職なのか、休日とか夜間とか民生委員からの対応、現地に行く場合もあるので一時的にも判断ができる管理職としている。
- \* 民生委員に支援担当者の構成員の名簿と自宅の電話番号を渡している。

質問：活動の目安と考え方 Q&A 集とは

回答：活動するにあたってマニュアルみたいなものがないか、改選のたびに 4 割近い方が交代すると言う事で、特に新任民生委員が、どこまで対応すればわからないとの指摘があり活動の指針という形で Q&A を作成した。

- 特徴：◆高齢者、障がい者、児童などのケースに分類して、一問一答式で作成  
◆より実践的な指針になるように、可能な限り、言い切る形としている  
◆一斉改選時などに改正を行い、現在は第 4 版（昨年 12 月 1 日改定）



今や大分県版 Q&A が作成され、県内全域に浸透

質問：民生委員・児童委員の負担軽減のための社会福祉協議会の取組とは

回答：小地域福祉ネットワーク事業に取り組んでおり、「見守り」においては、ふれあい対象者（地域で気になる方、要支援者など）に対して、声かけなどを行うふれあい協力者（見守りや声かけを行う近隣住民）を設定することで、気付きの部分を強化し、負担軽減に繋げている。

質問：生活保護受給者への通知文等の持参について

回答：民生委員・児童委員に年度当初に生活保護受給者の名簿を送付するだけ。

質問：民生委員・児童委員の選任方法について

回答：自治会長などにより選任いただき、推薦をいただいている。

質問：活動費について

回答：年間 1 人 150,000 円、年 4 回に分けて支給  
地方交付税措置あり（1 人 59,000 円）。市からの持ち出し（1 人 91,000 円）

質問：欠員及び欠員地区での対応

回答：同じ校区内の民生委員相互の協力により対応

質問：1 人あたりの担当最多世帯数と最小世帯数

回答：担当校区の最多世帯数・・・535 世帯、最小世帯数・・・75 世帯  
個々での担当世帯数の集計は未実施だが、かなり差があると感じている

質問：生活保護受給者の 1 人あたり担当最多保護世帯数

回答：受給者世帯 6,903 世帯、1 人あたり担当最多保護世帯数 87 世帯

**【委員からの質疑応答】**

質問：欠員している年数とその対策は

回答：1 年以上欠員の所はある。推薦してもらう自治会長さんに活動を理解して頂き、本人も新任で辞めないように協議会からも推薦会議に出て人選する。

質問：庁内サポート体制が始まったあとの民生委員さんの声はどうか

回答：とても安心感がある。タライ廻しがなくなった。24 時間連絡が取れる。

質問：なり手がいないため、議員に探してくれと言う事はあるのか

回答：議員の奥様になっているケースはある。

質問：活動費のアップは望まないのか

回答：地区によっては幅があるがそれは仕方がない。ボランティア精神で公平に。

質問：守秘義務があるが、ストレスはたまらないのか

回答：44 校区で定例会の時に全てを出してもらうようにしている。(情報共有)  
地域包括センターが 23 ヶ所あり、校区によっては定例会に職員が出席して相談にのってあげている。

質問：相談支援事例はまとめたものはあるのか、Q&A とイコールではないのか

回答：支援担当者事務処理票をまとめたものはあるが、Q&A は活動の目安と簡単な考え方であり、支援担当課への連絡先で事務処理票をまとめたものとはイコールではない。  
(改定の際は、事務処理票の例を入れる場合がある)

質問：民生委員さんと対象の方が合わない、対応ができないときは

回答：大体は会長が対応している。それでもダメな場合は市の方に。

質問：退職した職員さんが、民生委員になられる数は

回答：議会意見交換会で、市の退職者に対しての要望は多い。改選の時の公務員からの委員は 82 人(学校の先生、警察官)市役所の OB は 18 名と少ない。

質問：素晴らしい制度だが、全国からの視察件数は

回答：視察 7 件、問合せ 100 件以上ある。(民生委員、行政が多い) 市議会 4 件

質問：生活保護受給者の手続きや児童扶養手当など支給について絡みはないのか

回答：相談や仲介はするが、解決するのではなく後は行政に「繋ぐ」だけである。





### 【感想】

今回の大分市の民生委員・児童委員庁内サポート体制の取組は、大変すばらしい取組をされていて、調査研究の目的である、本市での民生委員・児童委員さんが動きやすいような支援ができるヒントが随所にあります。特に新任民生委員・児童委員が、どこまで対応すればわからない時に「活動の指針という形でQ&A」集を作成して応用している事は、本市でも充分活用できるツールであり担当課にすぐさま浜田版を作成していただきたいと思いました。また、活動の中で困り事やストレスを自分で抱え込むのではなくて、相談できる場所があるという事が次の担い手を探す時や、再任になる方も大事な要素であるとお教授して頂きました。

そして最後に民生委員・児童委員への負担軽減のポイントは、自分で解決するのではなくて、とにかく「繋ぐ」事が大事であるという言葉が印象に残りました。

現場の声を聞かせていただきました、大分市民生委員・児童委員協議会 廣瀬 惇子副会長、湊 芳包副会長大変ありがとうございました。